

第30回 日本糖尿病眼学会総会 共催モーニングセミナー2

画像鮮明化アルゴリズム 算術処理を活かした3D-HUSの 有用性について

日時：2024年6月15日(土)7:45~8:45
会場：第2会場(赤坂インターシティコンファレンス 401)
共催：第30回日本糖尿病眼学会総会
千寿製薬株式会社

写真提供：井上 真先生(杏林大学)

3D heads-up surgery (3D-HUS) は、顕微鏡の鏡筒を覗かず3Dモニターの映像を見ながら手術を行う、いわゆるDigital Viewing Ophthalmic Surgeryです。これまでのアナログ方式からデジタル方式に変わることにより、3D-HUSも大きな進化を遂げています。3D-HUSの登場から現在まで、「デジタル化された世界でしか出来ないこと」を模索してきました。その答えの一つが、画像鮮明化アルゴリズム“MIer-テクノロジー”です。

画像鮮明化アルゴリズムは画像/映像のオリジナリティを保持したまま独自の算術処理によって画像を鮮明化するものです。本技術を用いることにより眼科画像・映像の情報量が増えて病変の詳細を今まで以上に把握できたため、既に「硝子体や涙道の内視鏡手術(MIer-2D)」「硝子体/白内障手術(MIer-3D)」など臨床の場で活用されています。3D-HUSというデジタル化された術野に対しても、算術処理装置を接続することで術野を鮮明化することが可能となりました。

今回は、3D-HUS + MIer (MIer-Red/Blue) によるDigital Viewing Systemの有用性と未来への展望について、3人のスペシャリストの先生方に「白内障手術への応用」「緑内障手術への応用」「網膜硝子体手術への応用」についてお話いただきます。

座長：厚東 隆志 先生 / 杏林大学

演者



画像鮮明化装置MIer-Redを活かした緑内障手術

原 信哉 先生
はら眼科



画像鮮明化装置MIer-Blueを活かした白内障手術

館 奈保子 先生
たち眼科 富山駅前アイクリニック



画像鮮明化装置MIer-Redを活かした網膜硝子体手術

大野 尚登 先生
大野眼科クリニック

“見える”の向こうにあるものを。

SENJU

千寿製薬株式会社 医療機器事業部
〒541-0048 大阪市中央区瓦町三丁目1番9号
TEL: 06-7178-2999